



- 1 読書中も髭を撫で続ける関羽。寒い時期には首にまいてマフラーに。『春秋左氏伝』は儒教の経書で重要な四書五経のうち、五経の『春秋』に含まれる注釈書（伝）の一冊。
- 2 入ってすぐは一般的な関帝廟のような作り。奥に「春秋樓」も見え、ここまでは非常にこじんまりとした印象だ。
- 3 関羽大仏殿横には関羽愛用の青龍刀レプリカ。関羽関連の遺跡にはほぼ標準装備されているが、どこの青龍刀も微妙にサイズが違っているのはなぜだろうか。
- 4 間違えないように「春秋樓」としっかり明記されている。
- 5 「春秋樓」内部の壁画も「瀾陵橋で感謝する関羽と見送る曹操」。果たして別れの真相やいかに。



- 1 劉備の妻二人がいたとされる場所。それにしても劉備の妻たちは逃げ遅れる回数が少し多すぎる気がする。
- 2 これが関羽大仏殿。「春秋樓」本体の存在意義を無視したサイズはさすがにやりすぎか。いくら現在は神様とはいえ、ここは許昌であることを忘れないようにしたい。
- 3 大仏殿上からは許昌が一望できる。しかし、この眺めは本来「曹操ランド」から望むべきではないだろうか。
- 4 「春秋樓」前の公園には関羽の愛馬・赤兔の銅像も。
- 5 大きすぎる関羽。ついでに関平らも巨大化している。しかしモノ作りに手抜きをしない許昌は、ここでもかなりの技術を駆使してしっかり作り上げてしまった。



関羽の忠義心が
きらめきます

春秋樓

しゅんじゅうろう／チュン・チウ・ロウ

曹

操が一目置いていたスター武将といえば、蜀の関羽である。文献によって経緯は少々異なるが、曹操の元にいた際、夜通し書を読んでいたとされるのがこの「春秋樓」だ。この名は、関羽の愛読書であった『春秋左氏伝』から取られている。

敷地内には、複数の建物があり、最奥の建物には大仏びっくりの超巨大ゴールデン関羽が鎮座している。だが実は手前の小さい方が「春秋樓」であり、奥の関羽大仏殿は単なるサイドディッシュなのでダメされないように。

劉備の妻二人と幽閉されたため、「身の潔白」を証明するために毎晩読書していたという話もあるが、ミスター忠義こと関羽ならやりかねない。そして最後は、曹操からのラブコールを袖にして、劉備のもとへ戻っていく……この「関羽を戻してやった」エピソードが、「曹操様はそんなに悪人じゃない」という許昌市のアピール活動にかなり貢献しているようだ。

ACCESS GUIDE

- 許昌市魏都区文廟街
 ◎ 08:00～19:00 (夏期) / 18:00 (冬期)
 ● 25元 建設路の春秋広場北側すぐ

